

金沢市立紫錦台中学校

学級数：16学級 生徒数：415人

【テーマ】

がんの現状、予防、治療に関する知識を身につけ、自分自身の生活を見直す。

1 はじめに

これまで本校では、がんに関する教育は2年生の保健体育の授業でのみ取り扱うものであった。今回の推進事業を機に、がんに関する情報を、2年生の生徒だけではなく、学校全体に周知できればと考えた。

生徒に伝えていくテーマとして、がんの「現状」「予防」「治療」の3つの視点を軸に推進事業を進めたいと考えた。本校の特徴として、医療関係の保護者の方も多く、健康に関する意識も比較的高い生徒も多いと予想される。そういった生徒がより関心を持てるような工夫をしていく必要があると考えた。

2 実践

(1) 保健における基礎知識の定着

事前の学習では、生活習慣病の起こり方と予防についての学習を行った。脳卒中や心臓病等の病気を説明する中で、がんについても触れ、生活習慣病を予防するには、適度な運動を定期的に行うこと、毎日の食事の質、喫煙や過度の飲酒をしないことを学習し、自己の生活習慣を見直したり、課題や改善点を考えたりする学習を行った。

(2) がんに関する資料の掲示

研究授業を行うクラスの生徒に限らず、がんに対する興味や関心をもってもらうためや知識を身につけてもらうため、がんに関する資料を校内の廊下に掲示した。「がんを知ろう」という大きなテーマで、がんの「現状」「予防」「治療」に関する内容を取り入れた。



(3) 専門医を招いた授業を通して

本事業の研究授業において、金沢大学の矢野聖二教授を講師として迎え、研究授業を行った。研究授業では、矢野教授より、がんとはどのような病気なのか、具体的にがんの現状や予防、治療方法等について詳しく説明をいただいた。生徒はより専門性の高い先生の話を知ることができたので、より深くがんについて知ることができた。研究授業では、矢野教授の話をもとに、自分が気になる内容について調べ学習を行い、最後に、家族に伝えたい内容をまとめる学習活動を行った。



(4) 生徒の感想

・ 生徒 A の感想

遺伝のがんは 20 人に 1 人くらいの割合と聞いていたのでそれが印象に残りました。

・ 生徒 B の感想

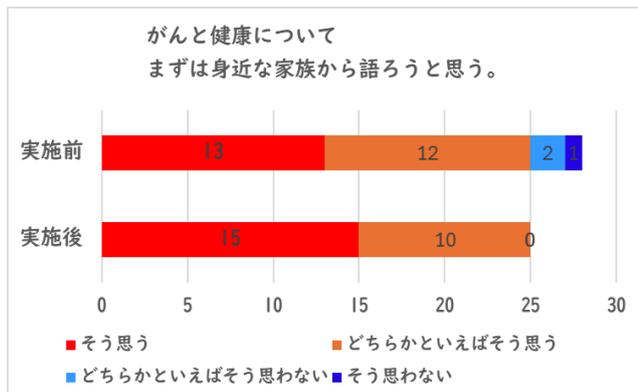
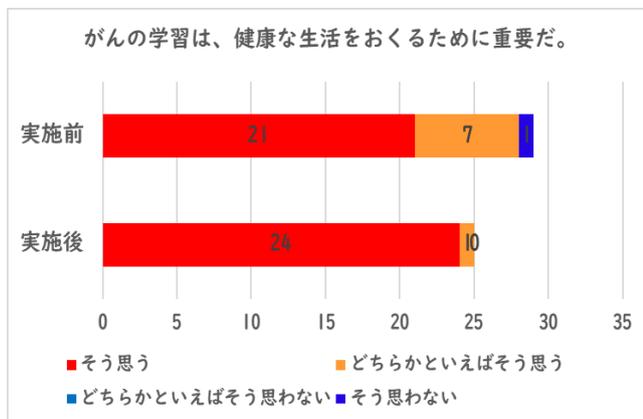
がんは自分が思っていたより恐ろしい病気だったけど、自分が思っていたより治療法があったので安心しました。

・ 生徒 C の感想

あまり身近に感じたことがなかったけど、日本人として通る道なのだと感じたし、自分が苦しい思いをしないように定期的に検診していきたいです。

3 生徒アンケートの結果

アンケート結果で、事前事後と比較し、がんの学習が重要と感じた生徒が増えたこと、及び家族とがんについて話してみたいという生徒が増えたことが、今回の学習の成果として挙げられる。



4 実践の成果と課題

〇〇成果〇〇

本事業を通して、矢野教授のご支援もあり、生徒には、より専門性の高い内容を伝えることができたと感じる。そして、生徒たちにとって特別感もあり、心に残る授業を行うことができた。また、がんについて考えるきっかけにもなり、自分自身の生活習慣だけでなく、大切な家族の生活習慣についても考えることができた。そして、研修や他の推進委員の研究授業、教材研究を通して、自分自身のがんに対する知識だけでなく、授業構想についてもより考えを深めることができた。

◆◆課題◆◆

今回の研究授業では、がんの「現状」「予防」「治療」の視点で授業を進めた。授業では、がんにつながる生活習慣のことや検診等の大切さについて触れることはできたが、日本は現状として、受診率が低いことについては触れられなかった。日本の受診率の低さの実態についても生徒に理解させ、将来、受診しようという気持ちをより持たせていくことが必要であると考えている。